

早咲きのママコナ属 *Melampyrum* の観察

井浦 和子 *

はじめに

長野県高山村で5月に採取したママコナ属 *Melampyrum* の標本を藤田淳一氏に同定依頼したところ、「ミヤマママコナにあたるのだろうか、5月に咲いていて良いのか?」というコメントをいただいた。ハマウツボ科のママコナ属は半寄生の一年生草本で、日本ではママコナ、オオママコナ等5種が確認されている。花期はいずれの種も7月から10月の間に入り、秋期に開花する草本である(藤井 2019)。

そこで、2018年5月と2021年5月から9月にかけて、高山村で5月に咲いていたママコナ属の花期を中心に観察したので報告する。高山村で5月に咲いていたママコナ属を本稿では以降「早咲きママコナ」とする。

早咲きママコナの観察記録

高山村は松川により形成された扇状地上に位置し、村の中心部は標高 450 ~ 850m の範囲に収まる。松川両岸は断崖となっており、早咲きママコナは標高 500m 付近の断崖上端から斜面にかけて、約 20 × 20 m 範囲にパッチ状に群生していた。図 1 に観察位置を示す。以降に観察記録を示す。

2018年5月11日(写真1)

早咲きママコナの開花初期のものを確認した。花序の一番下の花が開花した状態で、咲き始めたばかりであった。

2021年5月30日(写真2、3)

花は花序の下から上方の順に咲き、いずれの株も開花している。花冠の喉部には黄色の斑がある。花は白色のものが多く、少し紅色を帯びるものもあった。上唇と下唇はほぼ同色で、紅色を帯びる場合も上唇と下唇で色の差はほとんど無く、上唇・下唇全体が紅色になっていた。花冠の長さは 1.8cm 程である。苞に歯牙は無く、苞の先端は細くなるが尖

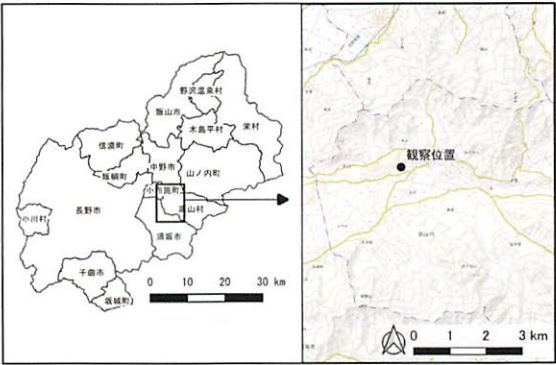


図 1 観察位置



写真1 花序の最下の花が開花 2018年5月11日



写真2 多くの花が開花 2021年5月30日



写真3 早咲きママコナの花冠 2021年5月30日
白色で少し紅色を帯びる。喉部に黄色の斑がある。

* 井浦和子 長野県上高井郡高山村 iurk@stvnnet.home.ne.jp



写真4 2021年6月13日

花序の上方へ開花が進んでいる。花序の下部では結実していた。



写真5 2021年7月10日

さらに花序の上方へ開花が進んでいる。苞に歯牙はみられない。トラマルハナバチ（↓印）の訪花が確認された。



写真6 2021年7月26日

開花はほぼ終わり、葉も枯れかけていた。



写真7 2021年9月30日

完全に枯死し、枯れた茎のみ残っている。



写真8 5月開花のママコナ属

2015年5月27日 長野県飯田市龍江 600 m

表 1 早咲きママコナの特徴と近似種との比較

	早咲きママコナ	シコクママコナ	ミヤマママコナ	タカネママコナ	ママコナ
学名	—	<i>Melampyrum laxum</i> Miq. var. <i>laxum</i>	<i>Melampyrum laxum</i> Miq. var. <i>nikkoense</i> Beauverd	<i>Melampyrum laxum</i> Miq. var. <i>arcuatum</i> (Nakai) Soó	<i>Melampyrum roseum</i> Maxim. var. <i>japonicum</i> Franch. et Sav.
分布	長野県高山村標高約500m	東海以西、四国、九州	北海道～本州中北部の深山	秩父山地・八ヶ岳・甲斐駒ヶ岳等の亜高山帯	北海道、本州、四国、九州の山地
花期	5月～7月	8～9月	8～9月	8～9月	7～9月
花冠の喉部の斑	黄色	黄色	黄色	黄色	白色
花冠の色	白色が多く、全体に紅色を帯びるものがある	上唇が紅色、下唇が白色が多い	紅紫色	黄白色	紅紫色
苞の歯牙	なし（小さな歯牙が1つある1株を除く）	あり	なし	なし	あり
苞の先端	鈍形	鈍形	鈍形	鈍形	尖る

「日本の野生植物」平凡社の記載をもとに作成

らず鈍い形であった（1 個体だけ小さな歯牙が 1 つあった）。

2021 年 6 月 13 日（写真 4）

花は花序の上方に咲き進み、下の方はすでに結実していた。

7 月 10 日（写真 5）

さらに花序の上方へ咲き進み、花が終わった花序もみられる。苞に歯牙はなく、先端は細くなるが尖らず鈍い。夏期の後半で開花数は少なくなっていたが、トラマルハナバチが盛んに訪花していた。トラマルハナバチは腹部のオレンジ色と黒の縞が特徴の大型のマルハナバチである。トラマルハナバチが花にとまると、その体重で花冠が真下に向くほど垂れ下がっていた。

7 月 26 日（写真 6）

花はほぼ終わり、葉も枯れ始めていた。

9 月 13 日（写真 7）

枯れた茎が残るだけの状態であった。

コナと花期が重複しない。一方、訪花昆虫に着目すると、シコクママコナで報告があるトラマルハナバチの訪花（長谷川・横川 2019）が確認され、他のママコナ属との共通点もみられる。

花の色では、早咲きママコナは白色から淡紅色であった。紅紫色の花が多いママコナ属の中で、白色の花を付けるものとしては、タカネママコナがあげられる。タカネママコナは亜高山帯に分布しているが、早咲きママコナが生育していたのは標高 500 m の低山帯であった。また、シコクママコナの花の色は、平凡社図鑑の写真（藤井 2019）、近隣では石川県の報告（高木・中野 2017）、岐阜県植物誌の写真（須山 2019）では、いずれも上唇が紅紫色で下唇が白色のツートンカラーであった。ママコナ属ではシロバナシコクママコナ *M. laxum* Miq. var. *laxum* f. *leucanthum* T.Yamaz.、シロバナミヤマママコナ *M. laxum* Miq. var. *nikkoense* Beauverd f. *albiflorum* H.Hara、シロバナママコナ *M. roseum* Maxim. var. *japonicum* Franch. et Sav. f. *leucanthum* Nakai といった白花品が記載されていることから、花の色が同定の決め手となるかは疑問が残る。

今後の課題

早咲きママコナの特徴と近似種との比較

早咲きママコナの特徴と近似種との比較を表 1 に示す。

早咲きママコナは花冠の喉部に黄色の斑があること、苞の先が尖らないことから、ママコナからは区別され、ミヤマママコナやタカネママコナと同じくシコクママコナの種内変異にあたりと考えられた。早咲きママコナの開花のピークは 5 月下旬～6 月上旬と考えられ、6 月には結実が確認された。9 月には完全に枯れた状態であった。数株が狂い咲きのような形で花期が早くなっているのでは無く、群落全体が同じフェノロジーを示していた。シコクママコナ（広義）の花期の中心は 9 月で、早咲きママ

長野市周辺で 5 ～ 6 月に開花し、盛夏には枯死するママコナ属があると聞いている（藤田私信）。筆者も飯田市の標高 600 m 付近で 5 月に咲いているママコナ属を確認している。これは苞に歯牙が確認されシコクママコナとしていた（写真 8）。花の色は白色であった。また、長野県植物誌の資料集（清水監修 2005）では、ママコナ属で 5 月に採取されている標本が散見される。長野県環境保全研究所の標本庫でも 6 月に採取され花をつけている標本を確認できた（写真 9）。長野県内に早咲きのママコナ属の個体群が複数存在しているといえる。

今後さらに早咲きのママコナ属が確認され、開花



写真9 6月採取のミヤマママコナ標本
1998.6.25 長野県穂高町（現安曇野市穂高）650 m
NAC123356

フェノロジーが種分化にどれほど影響しているのか、苞の歯牙の有無や花の色が同定のキーとして有効なのか、分類学的な研究が進むことを期待したい。

標本

今のところシコクママコナ（広義）としている。
採集地はいずれも長野県上高井郡高山村高山大橋下
標高 510 m、採集者は井浦和子。
IUR180511-06・NAC199468
採集日 2018 年 5 月 11 日
IUR210530-01・NAC199466
採集日 2021 年 5 月 30 日
IUR210613-01・NAC199451
採集日 2021 年 6 月 13 日
IUR210710-03・NAC199460

採集日 2021 年 7 月 10 日
IUR210726-03・NAC199464

採集日 2021 年 7 月 26 日

IUR は筆者の個人番号、NAC は長野県環境保全研究所植物標本庫の標本番号である。

謝辞

藤田淳一氏には、本報告の発端となる標本同定から、ママコナ属の各種情報、報告にあたっての助言まで大変お世話になりました。安曇野市の星野利雄氏には、マルハナバチについて教えていただきました。長野県環境保全研究所の尾関雅章氏、柳澤衿哉氏には、標本閲覧および標本登録にあたりお世話になりました。ここに御礼申し上げます。

引用文献

- 清水建美監修（2005）長野県植物誌資料集 CD-ROM.
高木政喜・中野真理子（2017）石川県におけるハマウツボ科シコクママコナの新産地確認と分布, 石川県立自然史資料館研究報告 第7号:51-53.
藤井紀行（2019）改訂新版日本の野生植物 5 ハマウツボ科ママコナ属, 平凡社.
長谷川匡弘・横川昌史（2019）紀伊半島南部におけるシコクママコナの生態的種分化～マルハナバチ媒花から蛾媒花へ, 日本生態学会第66回全国大会講演要旨.
須山知香（2019）岐阜県植物誌 ハマウツボ科ママコナ属, 岐阜県植物誌調査会 文一総合出版.